

2014年3月13日

坂田記念ジャーナリズム賞

日朝遺骨問題の報道で坂田記念ジャーナリズム賞を受賞

公益財団法人坂田記念ジャーナリズム振興財団が選定する第21回坂田記念ジャーナリズム賞の第2部門（国際交流・国際貢献報道）を、報道局ニュース情報センターが行った『空白の68年 ～日朝両国に眠る遺骨～』その一連の報道活動」が受賞しました。坂田記念ジャーナリズム賞の受賞は、昨年第1部門（スクープ・企画報道）を報道局ニュース情報センター・西村美智子ディレクターが受賞したのに続き、2年連続の受賞となりました。

報道活動名：「空白の68年 ～日朝両国に眠る遺骨～」その一連の報道活動

取材班名：日朝遺骨問題取材班

主な番組：2013年5月27日（月）27:44~28:39 放送

ドキュメンタリースペシャル「^{きまよ}彷徨う遺骨^{いこつ} ～日朝 空白の68年」

報道内容：朝日放送は、2012年より日本と北朝鮮に眠る遺骨問題に関する報道活動を続けています。遺骨問題の解決が日朝関係改善の糸口になると考えたからです。入手した平壤郊外にあった日本人墓地の地図などをもとに、北朝鮮政府と取材交渉を行い2012年6月に現地で墓地を確認。さらに、日本人遺族が墓参を望んでいることを伝え、10月には日本人遺族の戦後初の墓参を実現。同行取材しました。一方、日本国内に眠る北朝鮮遺骨の存在も取材。東京の祐天寺に保管されている北朝鮮出身者の遺骨の遺族をつきとめ、2013年10月平壤で独自取材を実現しました。

* 「坂田記念ジャーナリズム賞」は関西を拠点にした優れた報道活動に贈られる賞で、新聞・放送による報道活動を通じて関西の社会、文化の発展に寄与した故・坂田勝郎氏の遺志を実現するために設立されたものです。

* 西村美智子ディレクターが制作した番組は、ドキュメンタリースペシャル「復興の狭間で ～神戸 まちづくりの教訓～」です。